

# 宍道湖ヨシ（葦）再生プロジェクト

## －多様な主体による水環境復元活動－

NPO法人 斐伊川流域環境ネットワーク 理事長 小谷 武

### 事業背景

斐伊川くらの活動フィールドである宍道湖は、斐伊川水系の下流域に位置する汽水湖である。古くから宍道湖は七珍と呼ばれる固有な水産物に恵まれ、周囲を豊かなヨシ植生帯が囲んでいた。ヨシは貴重な地域資源を育むとともに、水質保全の役割を果たしていた。

しかし、近年人間の生活活動や経済活動を優先した結果、沿岸はコンクリート護岸で固められ、ヨシ植生帯が減少し、様々な雑排水の流入や油流出事故などにより急速に水質や水環境の悪化を招いている。NPO法人斐伊川くらは、宍道湖にヨシを取り戻すため、平成13年からヨシ植生帯を復元することを提唱し、平成14年から活動に入る。

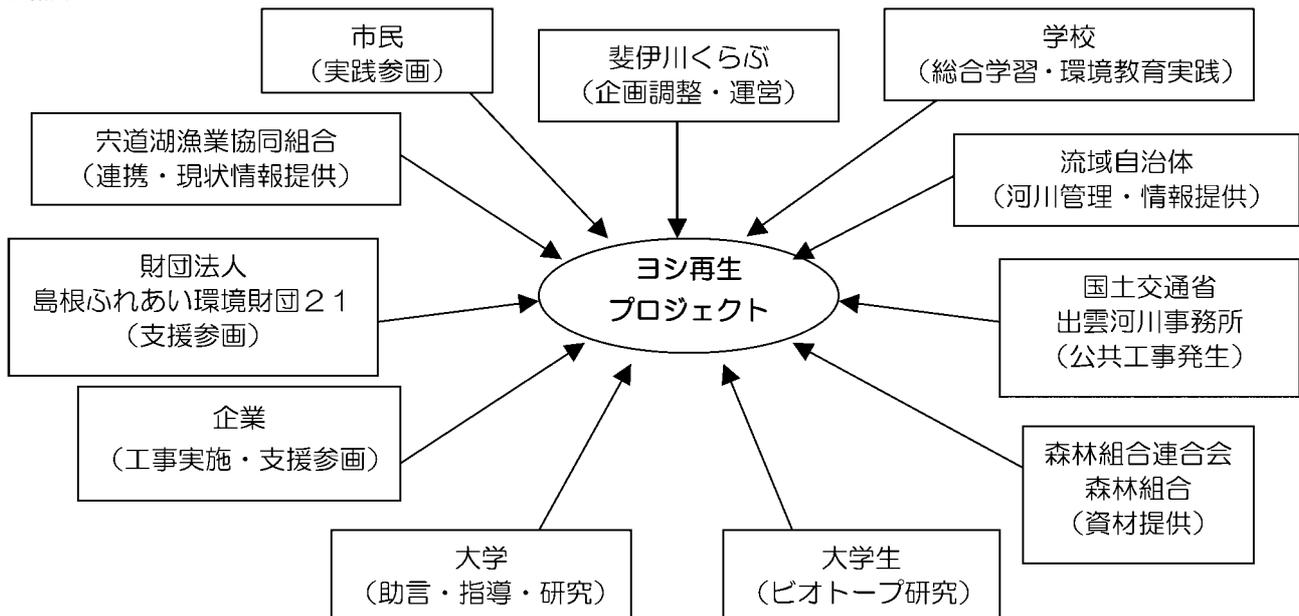
### 事業目的

宍道湖の水環境をヨシ植生帯によって回復するため、流域連携による地域力で復元する。また、植生帯を再生するため、流域の資材を活用し、独自に開発したヨシ植栽用竹ポット、護岸形成用木工沈床、消波沈床（粗朶沈床）を使いヨシの植栽活動を行う。

### 取組み体制

次世代を担う子どもたちを活動の中心に置き、産・官・学・民が一体となったゆるやかな協働組織「宍道湖にヨシを呼び戻す市民の会」で行う。

組織図



## 宍道湖ヨシ（葦）再生プロジェクト

—多様な主体による水環境復元活動—

NPO法人 斐伊川流域環境ネットワーク 理事長 小谷 武

### 事業内容

計画（ヨシ植栽地の選定及び復元のための施工・工法を国交省と協議）



啓発活動



沿岸地域の住民団体及び小学校説明会

竹ポットづくり学習会及び水環境保全学習会



ヨシの植栽イベント



補植・管理

## 事業実績

平成13年度から平成16年度までの事業実績は以下のとおり。

		平成 13年度	平成 14年度	平成 15年度	平成 16年度	累計
植栽 参加 人数	小学生	140	704	780	814	2,438
	一般	200	592	336	330	1,458
	総勢	340	1,296	1,116	1,144	3,896
植栽参加校数		2	14	21	21	58
植栽 竹ポット 本数	小学校	140	997	825	814	2,776
	一般	200	650	873	480	2,203
	施工用	3,808	2,789			6,597
	合計	4,148	4,436	1,698	1,294	11,576
植栽ヨシ苗本数		8,296	8,872	3,396	2,588	23,152
植栽地		・宍道湖西岸 ・松江市大井町	・松江市秋鹿町 ・平田市伊野灘 ・平田市園町 ・斐川町坂田	・平田市園町 ・斐川町坂田 ・松江市乃木福 富町 ・松江市大井町	・平田市園町 ・斐川町坂田 ・松江市大井町	
PR・講演活動			29	21	20	70

\* 国交省に対し県産間伐材と竹材を利用する多自然工法とヨシ植栽による自然復元施工提案を行う。(平成13年8月)

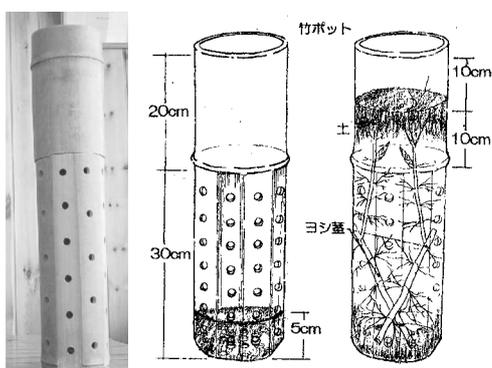
\* 小谷武(斐伊川くらぶ理事長)が木工沈床枠体と木工沈床工法及び竹材による植栽ポットの開発と特許取得(平成14年2月)

\* 竹の編柵による波消躯体の採用(コストを考慮した波消躯体、平成16年)

## 植栽に利用する資材、施工法等

斐伊川の流域資源を利活用し、以下のような資材、施工法を利用している。

### ● ヨシ植栽用竹ポット



使用材料：孟宗竹

使用目的：宍道湖の強い波浪からヨシを保護する。

その他：進出する竹を利活用する。

## 宍道湖ヨシ（葦）再生プロジェクト

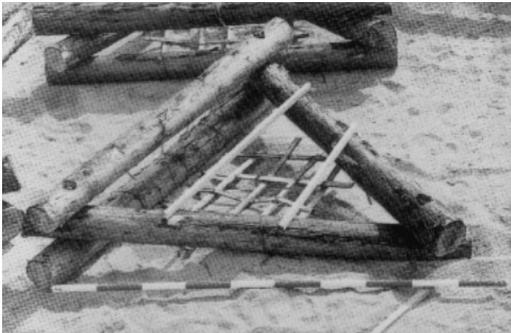
—多様な主体による水環境復元活動—

NPO法人 斐伊川流域環境ネットワーク 理事長 小谷 武

## ● 護岸形成用木工沈床（平成14年度まで採用）

使用資材：県産間伐材

使用目的：ヨシ植栽護岸を形成する。



施工前



施工後

## ● 消波沈床（粗朶沈床）

使用資材：県産間伐材、粗朶

使用目的：宍道湖の強い波浪から植栽浜を保護する。



施工前



施工後

## 事業評価

（主観的評価）

- ① 国（国土交通省）の間伐材利用度が高まることで、斐伊川上流域部の間伐材需要拡大に寄与し、結果として中山間地域活性化に貢献できた。
- ② 次世代を担う子ども達に活動を通して学社融合の“体験の場”が提供できた。
- ③ 森林の水源涵養機能と治水機能を維持するために森林の保全が不可欠であることの住民意識醸成に寄与できた。
- ④ 斐伊川流域の資源利用や環境保全は、流域全体の地域力によって、住民や行政・企業が連携して取り組むグランドワーク的課題であることを周知できた。
- ⑤ 無秩序に拡大し続ける竹林の有効な利活用方法（竹ポット・編柵）が紹介できた。
- ⑥ 出雲河川事務所が採用した竹ポットが、上流部に建設されている尾原ダムの移転者にとって「自立の一助」となった。

（客観的評価）

- ① しまね環境大賞（環境保全部門）財団法人島根ふれあい環境財団21
- ② 島根県知事表彰（環境保全活動）島根県知事
- ③ 平成15年度「中国地方地域づくり等助成事業」大賞（平成16年6月）

---

④ (社) 日本河川協会表彰・河川愛護 (平成16年5月)

⑤ 第12回しまね景観賞・奨励賞 (平成17年2月)

\*ヨシ植栽施工



\*復元したヨシの植栽地

